

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

二〇一五年 年頭所感

沖縄から希望をつなぐ

代表世話人 五十嵐正博



敗戦の日から七〇年目、安倍政権の下、「戦争をする国

づくり」が着々と進められています。「戦後何年!という言い方がずーっと続いてほしい」、新たな「戦争」の足音に警鐘を鳴らす吉永小百合さんの言葉です。「戦後」を途切れさせてはならない、二度と戦争をしてはならないとの訴えです。

特定秘密保護法が施行される

安倍内閣は、昨年四月一日に、武器輸出三原則に代わる「防衛装備三原則」を閣議決定し、七月一日、集团的自衛権の行使容認を閣議決定し、一二月一

〇日、特定秘密保護法が施行され、すでに「特定秘密」の指定が始まりました。

一二月二日の総選挙は、戦後最低の得票率(五二・六%)を記録し、与党自公は小選挙区、比例代表いずれにおいても五〇%を下回ったにもかかわらず、選挙制度のマジックにより、議席率で前者が七九%、後者が六九%を占めることになりました(有権者総数からすると自民党は小選挙区で二四%、比例で一七%にすぎない)。安倍首相は、この結果に「信任を得た」と言い張り、念願の「戦争をする国づくり」を加速させようとしています。

「切れ目のない法制」へ

今年に入ると、ODA新大綱を閣議決定して、「積極的平和主義」に基づき「非軍事分野」での他国軍支援を可能にし、自衛隊の海外派兵恒久法制定が目論まれ、はたまた集团的自衛権に基づいて自衛隊が武力を行使できる「存立事態」という概念を新たに設け

事務局〒920-0848
金沢市京町 28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替口座
00760-0-15689
会報込年会費 3000 円

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則(つくらず、もたず、もちこませず)を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

て「切れ目のない法制」を作るのだと。

九条がある限り、いくら荒唐無稽な「解釈」をしようとして、「切れ目のない法制」を作ることには出来ません。

「宣戦布告」の権限は?(九条は「交戦権」を否認している。明治憲法第一三条「天皇ハ戦ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ条約ヲ締結ス」戦死者はどうなる?(米国は約二八万人の職員と年間予算約九兆円の「退役軍人省」をもつ)「軍法会議」の設置は?(憲法七六条二項は、特別裁判所の設置を禁止する)、などなど憲法に反する問題点は山のようにあります。今年「戦争をする国」にさせない正念場になります。

花鳥風月

非核石川の会では、毎年行っている非核平和施策

の拡充を求める自治体アンケートにもとづき、平和事業の先進自治体取材し、会報やホームページを通じて自治体関係者と情報を共有してきました▼このような取り組みと、二〇二〇年までに核兵器廃絶を目指す“平和首長会議からの働きかけが相まって、昨年のアンケート回答には、平和首長会議への「加盟に向けて検討中」が新たに五か所ありました▼その中で津幡町は昨年夏に加盟し、白山市議会では「来年度に迎える戦後七〇周年を機に加盟したい」との市長答弁がありました。また昨春秋に本会役員との懇談で中能登町長は、「非核平和宣言の標柱」を来年建てることにしよう」と約束いただくなど、核兵器廃絶と平和を願う自治体が着実に増えていることに未来への希望があります▼安倍政権の解釈改憲による集团的自衛権の行使容認「戦争する国づくり」と核兵器依存の抑止力政策の根っこは同じです。二〇一五年は被爆七〇年の節目の年、憲法の平和的生存権を守る運動と共に自治体から核廃絶運動を大きくひろげましょう。(か)



3・1ピキニデーの記事は二面

こうして、この国のほとんど絶望的な政治状況の中で、南の島から一筋の希望の光がさしているのが見えています。その光は、琉球・沖縄が四〇〇年もの長きにわたりヤマトから侵略され、処分され、差別され、はては集団自決を迫られてきたことに対する激しい怒り、深い悲しみの反射なのでしょう。そうした暴虐の歴史を「なかった」と強弁し、さらには住民の圧倒的多数の反対を無視して新たな恒久的米軍基地を辺野古に、ヘリパッドを高江に作るうとしている「腐りヤマト政権」（芥川賞作家、目取真俊さんの言。目取真さんは、辺野古に張り付いて抗議活動が続けている）を射抜こうとする怒りの光なのです。

「オール沖縄」に希望の光

その光は「オール沖縄」に結集し、名護市長選に始まり、名護市議選、沖縄県知事選、衆院選を「腐りヤマトウ政権」に対する勝利に導きました。

沖縄の人たちの激しい怒りの源は、ヤマトにより「人間の尊厳」を踏みこじられ続け、人間として認められてこなかったから、七二年の本土復帰によっても、日本国憲法の適用外に置かれてきたから、と昨年加賀市で講演された太田昌秀元沖縄県知事は語られました。沖縄の人たちは、人権を蹂躪さ

れてきたがゆえに「人権の尊重」を願い、沖縄戦の悲劇を経験したがゆえに「基地のない沖縄、平和な沖縄」を願うとも語られました。

権力側は、いつの時代にあっても、また洋の東西を問わず「分断・統治」を支配の常とう手段にしてきました。それは、植民地支配の手段であるだけでなく、軍事基地、原発建設の反対派を弾圧する卑劣なものでもあり、臆面もなく、平然と、地域社会を崩壊させ、はては家族関係までもズタズタにしてきました。札東で反対派住民の分断を図り、「沖縄振興予算」を削減すると脅します。ここでも、ハンナ・アーレントの言う「悪の凡庸さ」が見て取れます。

決して沖縄は屈しない

しかし、沖縄は屈しない。瀬長亀次郎さんの信条「不屈」精神が生きています。腐れヤマトウ政権、恥知らず政権の脅しには、決して屈しはしないさ、沖縄には「自己決定権」がある、沖縄の人たちのゆるぎない抵抗の根底にある確信です。

沖縄から発せられている希望の光を、「お上の言うがまま」に、あるいは無自覚に沖縄を抑圧してきたヤマトの私たちは、自らの導きの光としなければなりません。

私は、一昨年の本欄で、「権力がもつとも恐れるのは、『権力に立ち向かう連帯の輪』が広がること」と述べましたが、沖縄の多くの人々と接して、口先だけの「連帯」を言うことに恥入るばかりです。

「議論より行動を！」

「座り込みの現場に来てくださいね！」

「多くの人が集まれば基地建設を止められるんです！」

沖縄からヤマトにつなぐ年に

今年、沖縄から発せられた希望をヤマトにつなぐ年にしましょう。そして、「戦後」を途切れさせようと、あの侵略戦争の甚大な被害・加害双方について「なかった」とし、新たな「戦争」を企てるあらゆる策動に立ち向かっていきましょう。

辺野古に新軍事基地を作らせないために、高江にヘリパッドを作らせないために、この国を「戦争をする国」にさせないために、原発再稼働をさせないために、核兵器廃絶のために、人間が人間らしく生きられる国にするために。

◎本号から会報の掲載字数をふやすため、紙面の段組みを三段から四段に変更しました。

被爆七〇年の原水爆禁止運動の出発点

三・一ビキニデーを成功させよう！

一九五四年三月一日、アメリカはマーシャル諸島のビキニ環礁で広島型原爆の一〇〇〇倍もの威力をもつ水爆実験を強行しました。この水爆実験は、西太平洋からインド洋まで広大な海域を放射能で汚染し、マーシャル諸島の人々や「第五福竜丸」をはじめ多くの日本漁船に重大な被害をもたらしました。この三月一日を「ビキニデー」として、核兵器全面禁止を求める全国集会が毎年開催されています。

二〇一五年の三・一ビキニデーは、直前で、核兵器全面禁止・廃絶をめざす日本と世界の世論を大きく盛り上げる場です。また、「戦争できる国づくり」へ暴走する日本の政治を、非核平和の方向へと大きく転換させていく上でも、きわめて大事な結集の場となります。

アメリカの核実験による第五福竜丸以外の被災船の調査結果を厚生労働省が初めて開示する中、ビキニ被災を繰り返させないために、核兵器の全面禁止へ、国民的共同を大きく広げていくための新たな出発点になります。

二〇一五年 NPT 再検討会議・ニューヨークでの国際共同行動、「原爆と人間」展と核兵器全面廃絶アピール署名の取り組み、多彩で創意にあふれた国民平和大行進など、被爆七〇年のすべての原水爆禁止運動が三・一ビキニデーから始まります。

今年の「三・一ビキニデー」の集会は二月二十七日から三月一日まで、静岡、焼津両市で開催されます（詳細は案内チラシを参照下さい）。

原水爆禁止運動の発端となった静岡・焼津の地でビキニ事件や原水爆禁止運動の歴史を学び、核廃絶運動の大きなうねりをつくりましょう。

◆関連記事◆

ビキニ水爆実験・船員被ばく追跡調査 福竜丸以外で初 厚生省

一九五四年に静岡県焼津市のマグロ漁船「第五福竜丸」が被ばくした太平洋ビキニ環礁での米国の水爆実験を巡り、厚生労働省が近く、当時周辺で操業していた他の船員について健康影響調査に乗り出すことが分かった。被災船は全国で少なくとも五〇〇隻、被災者は一人に上るとされるが、国はこれまで福竜丸以外の船員の追跡調査をしてこなかった。当時の放射

線検査の記録が昨年見つかったことを受けたもので、ビキニ水爆実験での被害の位置づけが大きく変わる可能性が出てきた。（中略）

国の対応を転換させたのは、高知県で八〇年代から船員の聞き取りを進めてきた市民団体「太平洋核被災支援センター」の活動。山下正寿事務局長は、被災時に厚生省がまとめ外務省を通じて米国側に提供した検査記録の一部を同省が二〇一三年に開示したことを受け、基になった記録の開示を一四年七月に厚生省に求めた。

同九月、厚生省は延べ五五六隻、実数四七八隻の船員の体表面などを検査した記録を開示した。厚生省幹部は「過去に薬害エイズもあり、『資料を隠していた』と指摘されることに厚生省は敏感だ」と話し、記録開示の延長線上で船員らの健康影響調査をせざるを得なくなったことを示唆する。

福竜丸以外の漁船を巡っては一四年八月、岡山理科大の豊田新教授が広島市内で開かれた研究グループの会合で、水爆実験の東方約一三〇〇キロの海域にいた高知県の船員の歯を調べたところ最大四一四 mSv の被ばくをしていたと報告。同グループは広島大の星正治名誉教授の呼び掛けで集まった放射線被ばくの研究者や山下

事務局長らで構成され、血液の細胞中にある染色体異常なども調べている。関係者によると、厚生省の健康影響調査は、専門家らを集めた研究会を設置し、同省の記録に基づき当時の被ばく状況を推計するとともに、福竜丸の状況と比較する。星名誉教授らのグループによる船員の歯や染色体異常の検査も聞き取り調査する。

〔毎日新聞〕二〇一五年一月五日 東京朝刊



二〇一五年ニューヨーク行動に 私も参加します

池田治夫

私は被爆二世です。父が広島で被爆したのですが六〇年近く前に亡くなっています。当時、被爆者への支援制度はなく手帳も取らずじまいでした。被爆の事実を証明するものは、本人が家族に語った「兵隊として被爆直後の

広島市内で死体処理にあたった」の一言だけでした。今年に入って厚生労働省に調査を依頼したところ、父の「軍歴簿」が送られてきました。一九四五年二月に徴兵され横須賀海兵団に入隊、五月から「大竹潜水学校」に所属していたことは証明されましたが、証言はこれから掘り起こすしかありません。

私は大学生の時に政治学の講義で恩師の岩佐幹三先生の被爆体験を聞き、「原爆被災者友の会」を知りました。卒業後地元の医療機関に就職してからもずっと平和運動に関わってきました。そして被爆者運動の継承が求められていると感じて、二〇一〇年七月「二世部会」を立ち上げました。きっかけは役員さんから「定年になったら手伝ってね」と言われてきたことがあります。そこに二〇一一年三月、東日本大震災と原発事故が起こりました。原爆と原発、原理も自然や人間への影響も変わらないということを感じました。事故後の世の中の動きにガマンならないと、退職を待たずに決意しました。被爆二世として自身への遺伝的影響はどれだけかという不安はありますが、もっと広く核被害という観点から問い直すべきことがあると考えま

す。被爆の事実が意図的に隠されたり、過少評価されたりしている問題です。被爆地周辺で「黒い雨」に遭った住民、日本国中に散らばった軍隊関係者、海外在住被爆者など声をあげられなかった方々がどれだけいるでしょう。

更に世界の原水爆実験場や核廃棄物処理施設周辺住民の実態はどこまでわかっているのでしょうか。そして彼らにも二世三世がいます。また、今現在も、福島では原発事故後の汚染水垂れ流しや大気中への放射性物質の飛散はコントロールされていません。ベラルーシ同様、低線量であっても「国民総被曝」の事態もそう遠い先のことではないような気がします。

被爆者は核被害の生きたシンボルです。その体験と運動の灯を消してはいけないと思います。被爆者の高齢化によって運動と被爆体験の継承が課題となっていますが、私たちの訴え方はまだまだ未熟です。

昨年六月、石川反核医師の会の講演会で第五福竜丸記念館の市田真理さんのお話を聞きました。「語りつぎ部」として生きて行こうと決心しています」の言葉に共感しました。ひとりでも多くの被爆者の証言を聞き、記録に残し、私たちが語る中身と材料を増やしていきたいと思えます。そして「核

兵器のない世界」に向けて発信していきます。私は今年三月で定年退職を迎え、四月にニューヨークの国連 NPT 再検討会議への要請行動に参加します。

◇ニューヨーク行動の計画◇

- ・ 四月二四日 成田空港発
- ・ 四月二五日 生協代表团と昼食会
- ・ 四月二六日 NGO の国際共同行動
- ・ 四月二七日～二九日 NPT 再検討会議の傍聴、原爆展、被爆証言、各国政府代表部要請

- ・ 四月三〇日 ニューヨーク発
- ・ 五月一日 成田空港着

(石川県原爆被災者友の会二世部会)

被爆 70 年・NPT 再検討会議の年
被爆者とともに核兵器のない世界を

北陸原水協学校

日時 2015 年 2 月 1 日(日) 10:00~15:00
会場 富山県教育会館
特別講演 「核兵器はなくせる」(仮題)
講師 日本原水協常任理事 川田忠明さん
主催 北陸 3 県原水爆禁止協議会

非核石川の会 リレーエッセイ

フィールド活動と想像力

松浦健伸

昨年一一月に名古屋市の路上生活者を対象に精神保健調査を行った。調査の目的は、いわゆるホームレスの状態を精神医学的な面から明らかにして、より彼らに寄り添った支援につなげられるようにということである。

支援し続けている地元の NPO の

方や大学の研究者とも協働し、民医連の職員も一五〇人以上集まって、一〇人以上の方の身体、精神、歯科の面から健診活動を行い、これまでの生活歴や路上生活に至った背景などを聴取した。調査結果は現在も分析中であるが、三割以上の方に知的障害が見出されたり、五割以上の方に精神疾患が見られたりしていた。

路上生活の方々には、厚労省の調査では年々減少し、現在全国で一人を切っていると推計されている。しかし実態は見えなくなっているのではないかと指摘されている。

ネットカフェや車中生活者など、住居を持たない人たちは減っていないのではないか、あるいは無料(低額)宿泊所という名の貧困ビジネスに利

用されて生活保護の保護費のほとんどをむしりとられて、三畳ほどの部屋とも言えない空間に押し込められている方も多い。見えなくなっている中で、その人たちのことをただ言葉で聞いて想像することは非常に難しいと思われる。

今回の調査では多くの仲間の参加があつたが、参加者自身にとっても貧困の問題、貧困と障害の問題を現場で当事者から感じる良い機会になったのではないかと思われる。

社会保障や福祉の問題だけではなく、平和や戦争の問題も同様であると思う。そのことを自分の身に置き換えて共感したり、自分の問題として考えたりするためには、単に言葉を聞いて受身的に学ぶだけでは不十分である。

私たちが運動するときには、多くの人が想像力を働かせられるようなフィールドを提供することが必要だろう。それがまた人間らしいことであると思う。

日本を再び

「カーキ色」にしないために

松浦忠孝

「政府の行為」によって戦争が開

日本は「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し(日本国憲法前文)」たのですが、安倍内閣は特定秘密保護法によって、「政府の行為」を知ろうとすることを厳しく罰しようとしております。

安倍内閣は昨年、歴代の自民党政権が、集団的自衛権の行使は憲法九条により「できない」としてきた憲法解釈を変更して、閣議決定によって「できる」ことにし、今年はそのための法制化を強行しようとしています。

安倍内閣の一連の暴走政治を受け、保守層の方々や海外の有識者からも、安倍内閣は「保守ではない、極右だ、危ない！」として警戒が生まれています。

ヨーロッパでも極右の台頭が報じられておりますが、フランク・パウロフ著『茶色の朝』(茶色はヒトラー・ナチス初期の制服の色でした)が出版され、再び「茶色が支配する社会」を許してはならない、と大反響を呼び、極右台頭に大きくブレーキを掛けたとこのことあります。

日本の戦前は、カーキ色(国防色とも呼ばれましたネ)が溢れていました。

一昨年末から、濃い「秘密色」の雲が日本の空にかぶさり、いよいよ地上に垂れ込め始めました。鼻下に色濃い髭を付ければヒトラーそっくりになる方は、日本を安倍色にしたことの野心を追及してきましたが、今年さらさら、陸・海・空、そして心の中まで戦前色に染め上げたいと執念を燃やしています。

今年を再び「戦前の始まり」にしないために、再びカーキ色の制服を着る者が着なくてよいように、孫の時代が色彩あふれる社会でありますように、今年も「憲法を守ってこう」「憲法が輝く社会に」と努力していく決意です。



工藤昌宏氏が語る

二〇一五年・経済の源流

沈み込む国内の実態 誤った再生シナリオ

永山孝一

雑誌『経済』の学習会で工藤昌宏氏(東京工科大教授)の「日本経済の回顧と展望二〇一二〜二〇一三年」に学

んだのは二年前でした。

論文では、内需停滞構造⇨経済縮小の悪循環構造が定着していること、海外での生産財調達の加速化で国内経済の循環構造の弱体化を助長、世界市場の停滞、対中関係の悪化さらには東日本大震災・福島原発事故による放射

能汚染といった経済外的な要因が立ちあがる。こうして日本経済は、従来の経済政策では対応できないほど構造的に変容し、落ち込んでいると述べられました。特に印象に残ったのは、

「歯止めなき沈み込み」として、「政策

効果が希薄化しデフレからの脱却の糸口も見えない中で、輸出や設備投資、雇用、消費も停滞し続け、自動車、鉄鋼、電機、化学などの分野では、企業収益の大幅な下方修正が相次いでいる。その上、好転材料も見当たらず経済政策も効かず、打つ手も見失っているとなれば、日本経済はいよいよ漂流を余儀なくされることになる」と述べ、さらにまた「国民生活の安全網である医療、年金、介護制度も限界をさらけ出している。その原因は、失政によって誘導された経済停滞、国民生活を軽視した歪んだ制度設計にある。またこのような失政が続く限り、日本経済は世界経済の動揺の波に翻弄され続けることになる」——以上の状況は、日

本経済が再び沈み込みを開始したとばかりでなく、停滞が質的に新たな段階に入っていること、言い換えれば停滞から抜け出すことがますます困難な状況に突入したことを示している——と述べられ、注目されました。

*

それから二年。「二〇一五年・経済の源流」(赤旗)での新春コラムに注目しました。

「沈み込む国内の実態(上)」で、「これらは、国内の需給を示すGDPギャップにもしめされており、株価の異様な上昇とは対照的に一四年四〜六月期にはマイナス2.2%(約一兆円の需要不足)、七〜九月期にはマイナス2.8%(約一四兆円の需要不足)とさらに拡大しています」「また、アベノミクスでは、GDPだけではなく、物価、株価、さらには外国為替相場までも操作の対象になっています。けれども、操作は経済実態をごまかし、問題を先送りし、問題解決を困難にするだけです。そもそも、株価操作などは、政府がやるべきことではありません」と指摘します。

「誤った再生シナリオ(下)」では、「このような誤った認識に基づいて、大企業の収益拡大を柱にした日本経済の再生シナリオが作られました。す

なわち、大企業の収益拡大を徹底的に推し進めれば、やがて設備投資も雇用も増えて、賃金も消費も拡大するであろうというシナリオです」「このシナリオに基づいて日銀の異様な金融緩和策が講じられました。」「…しかし、

肝心の経済循環の形成には全くつながらっていません。それどころか、円安は輸入物価の上昇を通じて国民生活や中小企業経営を直撃し、株価の上昇は株を持つ者と持たざる者の格差を広げました。要するにアベノミクスは単に経済再生効果を持っていないばかりでなく、弊害をもたらすものだということです。」

「問題はさらに深刻です。…三本の矢が的外れで弊害をもたらしているにもかかわらず、直ちにその矢を放つことを止めるわけにもいかないジレンマに陥っています。それは、株価や国債価格の暴落を招きかねないからです。このような状態では、日本経済は停滞どころか漂流状態に向かうこととなります」と述べて、誤った経済認識と、誤った経済政策に警鐘を鳴らし、いよいよ深刻な日本経済の真の再生への転換を求めています。

詩人会議かなざわ「独標」より

どうや あんたも せんか

新保美恵子

起伏のある芝生だけの海浜公園
朝から旗を立てポールを打つ老人たち

「どうや あんたも せんか？」

挨拶代わりの誘いに
曖昧にへらっと笑って
断っているつもり？

反対しているつもり？
つもりつもりが積って
賛成しているつもり？

垂れ下がった雲の中
鈍い音が南から北へ 東から西へ

拡散して消えていく
消えては聞こえてくる
この街の日常性

松林の向こうは日本海
今日も また

北の方から砲弾が投げ込まれた

緊急発進は静寂の中

外耳から内耳へ

聴神経から大脳中枢へ

伝わるもの 伝わったものすべて
今 宇宙を振動させた機械音が
何事もなかったかのように
乳色の朝靄(あさもや)へと消えていく
ここは安宅の街

私の住む処だ

対象は想定内？

入れば追っばらう
敵国のことでしょ

全てはニッポンを守るため
ニッポンの国民を守るため
美しい国ニッポンの首相は

自信たっぷりに言つてのける
過度の自信はそら恐しいもの

「大根役者の表と裏なんて全部お見
通しや。」

二軒先のもも子婆さんは言う
ニッポンを守るため

お国を守るため

不思議なくらいにあの時とそっくり
抜き足 差し足 忍び足
戦闘機がギリギリと見え隠れして

「どうや あんたも せんか？」

カラフルキャップたちが陽気に誘っ
てくる

ごめん 今は できない

NPT再検討会議に向けて
代表派遣募金のお礼と報告

広島・長崎被爆七〇周年と核不拡散条約再検討会議を四月に控え国際的にも会議が重ねられております。

非核石川の会では井上英夫代表世話人のニューヨーク派遣費用の一部を負担したいと会員の皆さんに募金をお願いしております。

前号で報告しました後も募金をいただき、現在一人様から五万三千五百円が寄せられています。深くお礼を申し上げます。

引き続き会費納入と代表派遣募金の受付をいたしておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

寒さ厳しい折から皆様にはご自愛くださいますようお願い申し上げます。

二〇一五年一月一〇日

非核の政府を求める石川の会

常任世話人会

《編集室より》

◎今、おかしいことが起きている。驚いたことに県民の選挙で選ばれた翁長沖縄県知事とは「会いもせず、話も聞こうとしない」面会拒絶。

この時期各都道府県の知事は、来年度予算案のことで中央省庁や政権幹部と会い予算折衝や陳情を行っているのに。

自公政権が推薦し、新基地は県外移設の公約を覆した前知事が敗れたが面談をしている。

当選した新基地建設に反対する翁長知事とは面会をしない安倍総理や菅官房長官の態度は「異常」としか言いようがない。その上沖縄振興予算を一方的に昨年より削減するという。

沖縄の直近四回の選挙で「辺野古新基地NO!」は民意として認知されたことは沖縄県民だけでなく日本国民全体の常識となっている。

国民にとって大きな問題になると安倍政権は口では「丁寧」に説明をしまし「何かにつけ言っているが、しかし私たちは「丁寧な説明」を聞いたことがあるでしょうか。重要な問題は全て閣議決定し、国民の前で議論をしたことが無い。

中断していた新基地建設工事も監

視体制が弱くなった夜間に資材を搬入し強行している。沖縄の民意を「恫喝」「シカト」するそんな安倍政権を許すことはできない。

先日、瀬長亀次郎回顧録「沖縄の心」を読んだ。強制収用された土地返還運動や米軍の無法な暴力から生活を守るたたい、祖国復帰運動に、県民が闘ってきた歴史が生々しく書かれている。今の、沖縄の「民意」の土台がどのように築かれてきたのか知る上でお勧めしたい本である。(平)

◇

◎政府は一月一日、一五年度予算案に関して、公立小学校一年生で導入されている三五人学級を四〇人学級に戻せという財務省の要求について、採用しないことを決めた。

かねてから財務省は、三五人学級は教育的効果がないなどと暴論を展開し、四〇人学級に戻せば八六億円が削減できると主張していた。これに対し、小人数学級は世界の流れであり、子どもの成長を保障するためにも速やかな推進が必要だという世論は盤石であり、内輪である文科省さえ反対を表明していた。この結果はあまりにも当然である。

そもそもアイゼンハワー米大統領の「平和のための原子力」演説の三か

月後の一九五四年二月、日本学術会議での議論を飛び越えて政治主導で「原子力予算案」を作成して原発開発に着手した動機もまた経済優先主義であり、世界の流れと教育効果に盲目となる動機もまた同じくそれである。現代において原発再稼働を画策する動機も変わらない。

いま学校は、市場原理のなかで人心の荒れに直面している。目先の利益追求に走って節度を失い、もの見方もすこぶる表面的になった。ウソとゴマカシとその場しのぎは日常化し、ものを本質から見なくなった。人は本能丸出しとなり軽薄短小になった。

動機の在り方がこれだよいか、とくと考えねばなるまい。(ま)

◇

◎「全国商工新聞」新春特集号の石川康宏氏（神戸女学院大学教授）の論稿「二〇一五年政治展望」に大変勇気づけられたので要点を紹介します。

昨年末の総選挙で安倍政権は三つの大きな失点を余儀なくされた。一つは「安倍暴走政治のストップ」を正面から掲げる共産党を、八議席から二一議席に躍進させてしまったこと。二つは、沖縄の全小選挙区で「基地ノー」連合に敗北し、辺野古への新基地建設をますます困難にしまったこと。

三つは、改憲の最大の援軍と期待していた「次世代の党」を壊滅状態（一九議席から二議席）に追い込んでしまったことです。

どうしてこうなったのか。それは消費税増税、原発再稼働、格差拡大の安倍ノミクス、戦争する国づくり、沖縄基地建設の強行など、安倍暴走政治の根本に、国民の多数が反対していたからです。政治は権力者の思惑だけでは進みません。権力と国民の綱引きの結果としてしか進まないのです。

私たちが心掛けねばならないことは、安倍暴走政治をここまで追い詰めてきた「一点共闘」と「対案」の提示と「発信の力」を、ますます強めていくことです。安倍内閣と世論のねじれは深刻です。この世論の声をいっそう大きくしていくことが、安倍政治の暴走にブレーキをかける最大の力となっていくべきです。

今年には侵略戦争での敗北と広島・長崎での被爆から七〇年という節目の年ともなります。これを日本と東アジア、日本とアメリカの戦後史を大きく問い直し、世界の中で日本の新しい役割を前向きに考える絶好の機会としていきましょう。(か)

「被爆者が描いた体験画展」④

石川県原爆被災者友の会 中田喜重

昭和二〇年八月六日

原爆投下で、たくさんの方が山の方に逃げていく。体の焼けた人たち、毎日のように逃げていく。その中で倒れては橋の下の水を飲みながら助けを求めて、そして泣き叫びながら死んでいく。



八時十分

聞こえていた飛行機の爆音が急に高く響いてきた。窓に名もない草が飾られている明るい朝であった。



(1977年7月7日 中田喜重撮影)

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班 阿部智美



《非核平和・行事予定》

月	日	曜	時	行事名	場所
1	22	木	18:30	平和民主団体2015年新春のつどい(お話し 昴昭三さん)	石川県教育会館2階
2	1	日	10:30	北陸原水協学校(講師 川田忠明さん)	富山県教育会館
	7	土	13:30	新春社会保障講演会(講師 渡辺治さん)	金沢市社会福祉会館大ホール
	11	水・休	13:30	平和と民主主義を考える集い(大森定嗣・東孝二・土田光孝さん)	金沢市近江町交流プラザ4階
	22	日	13:00	映画「日本と原発」上映会&講演(河合弘之監督)	石川県教育会館ホール
	22	日	14:00	原水爆禁止石川県協議会総会	石川学習会館
	27	金	18:30	「青ひげ先生の聴診器」公演 お問合せ石川民医連	金沢市文化ホール
	28	土	14:30	「青ひげ先生の聴診器」公演 同上	同上
	28	土		2015年 3・1ピキニデー原水協集会和分科会	静岡県焼津市文化ホール
3	1	日		同上 墓参行進・墓前祭 3・1ピキニデー集会	同上
	14	土	17:00	戦医研北陸支部「戦争と医療に関する日独医の違い」	金沢市近江町交流プラザ4階
	15	日	14:30	「日本軍『慰安婦』問題とは～芝居とお話」(有馬理恵さん)	金沢市文化ホール
	22	日	15:00	八法亭みややっこ寄席 お問い合わせ金沢弁護士会	石川県教育会館ホール
4	11	土	10:00	むぎわらぼし例会・映画「アオギリにたくして」試写会	金沢市松ヶ枝福祉館4階
	24日(金)～5月1日(金)			NPT再検討会議・ニューヨーク要請行動	米国・ニューヨーク市
5	1	金		2015年メーデー	
6	13	土		非核の政府を求める会第30回総会	東京都内
	28	日	14:00	紫金草合唱団15周年記念公演	石川県文教会館ホール
7	26	日	13:30	映画「アオギリにたくして」上映会&講演(中村里美さん)	石川県文教会館ホール

*毎週金曜日 18:30 どいね原発アピール行動 金沢駅東口 祝日は休日としています。

*毎月6日、9日 12:00 核廃絶署名6・9行動 金沢市Mza前